南海トラフ地震臨時情報

～　被害を軽減するために　日頃から地震への備えを～

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界で概ね100年から150年間隔で繰り返し発生してきた規模の大きな地震で、前回の昭和東南海地震（1944年）及び昭和南海地震（1946年）が起きてから約80年が経過し、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています。

政府の地震調査委員会は、令和７年９月26日に発表した30年以内の発生確率を「60～90%程度以上」とし、最も高い「Ⅲランク」と評価しています。

内閣府の被害想定によると、沖縄県内では大きな揺れによる被害は想定されていませんが、津波による被害が見込まれています。「南海トラフ地震に限らず、大地震がいつ、どこで起こるかは分かりません。日頃からの地震への備えと適切な避難行動が大切です。情報を正しく理解し、適切な避難行動につなげましょう。

■南海トラフ地震臨時情報（下図）

「南海トラフ地震臨時情報」は、情報名の後にキーワード※を付記して発表する情報です。なお、気象警報・注意報とは異なり、「解除」はありません。

※キーワード：「調査中」「巨大地震警戒」「巨大地震注意」「調査終了」があります。

南海トラフ地震臨時情報		
発表条件		■南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ■観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
キーワード	調査中	■観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震警戒	■南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界において M8.0 以上の地震が発生したと評価した場合
	巨大地震注意	■南海トラフ地震の想定震源域内のプレート境界において M7.0 以上、M8.0 未満の地震が発生したと評価した場合 ■想定震源域のプレート境界以外や、想定震源域の海溝軸外側 50km 程度までの範囲で M7.0 以上の地震が発生したと評価した場合 ■ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合
	調査終了	■巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

●「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたときの防災対応
（気象庁ホームページ）
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/jishin/nteq/bosai.html

■発表後に取るべき行動

政府や自治体から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。

■南海トラフ地震防災対策推進地域

沖縄にも南海トラフ地震防災対策推進地域があります。以下のとおり、推進地域を示します。これらの地域の住民は、特に留意が必要です。

（沖縄県の南海トラフ地震防災対策推進地域）

名護市、糸満市、豊見城市、うるま市、宮古島市、南城市、国頭郡国頭村、同郡東村、同郡今帰仁村、島尻郡与那原町、同郡渡嘉敷村、同郡座間味村、同郡南大東村、同郡北大東村、同郡伊平屋村、同郡八重瀬町、宮古郡多良間村

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_shichouson.pdf

■南海トラフ地震に関する情報の留意事項

この情報は、大規模地震発生の切迫性とその被害の甚大性を踏まえ、不確実ではあるものの、大規模地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると評価された場合には、状況に応じて、この情報を活用して、**大規模地震に備えた行動を取ることで被害をできるだけ減らしていくという考え方に基づくものです。**「南海トラフ地震臨時情報」の発表がないまま、突発的に南海トラフ地震が発生することもあります。そのため、「日頃からの地震への備え」を実施することが大切です。

「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたときの防災対応

「南海トラフ地震臨時情報」発表時には、政府や自治体などから呼びかけられる、南海トラフ地震臨時情報のキーワード（巨大地震警戒、巨大地震注意または調査終了など）に応じた防災対応をとることが大切です。

被害を軽減するために　日頃から地震への備えを

規模の大きな地震は、いつ・どこで発生しても不思議ではありません。南海トラフ地震に限らず、突然襲ってくる地震に対し、被害を軽減するためには、日頃からの地震への備えが重要です。



○ 危険な場所を確認しよう！

海から離れていても、川に沿って津波が襲ってくることもあります。津波に襲われるおそれのある場所をハザードマップや周囲の地形・標識から確認しておきましょう。

○避難場所を確認しよう！

津波避難場所や避難ビルがどこにあるか、また避難経路などを確認しておきましょう。

避難場所は１か所だけでなく、さらに高いところの避難場所も調べておきましょう。

○避難経路を歩く訓練をやってみよう！

実際に避難経路を歩いて危険な場所がないか、安全に避難できるか確認してみましょう。

危険な場所がある場合は、避難経路の見直しなどの検討が必要です。



地震に関する情報は
沖縄気象台ホームページまで

沖縄気象台　検索

https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html